

「しんぶん赤旗」の歩み

- 1922. 7.15 日本共産党創立
- 1928. 2.1 「赤旗(せっき)」創刊。月2回刊行
- 1935. 2.20 弾圧により第187号を最後に停刊
- 1945. 10.20 再刊第1号
- 1959. 3.1 「アカハタ」日曜版発行
- 1966. 「声の赤旗日曜版」を発行
- 1969. 10.15 「赤旗」将棋・第1期新人王戦が始まる
- 1975. 1. 点字「赤旗」(月刊)創刊
- 1975. 7. 「赤旗」囲碁・第1期新人王戦始まる
- 1992. 2. 全面CTS(電算写植システム=コンピューター編集・出力)を導入
- 1997. 4.1 題字を「赤旗」から「しんぶん赤旗」に変更
日曜版のタブロイド化
- 2000. 5. 日刊、日曜版ともに紙面のカラー化
- 2018. 7.2 日刊紙の電子版発行
- 2019. 3.1 日曜版創刊60周年
- 2020. 8.21 「赤旗」2万5000号
- 2022. 7.15 日本共産党創立100周年
- 2023. 2.1 「赤旗」創刊95周年



「赤旗」創刊号(1928年2月1日付)の表紙



志位和夫委員長が記者会見で『日本共産党の百年』を発表したことを報じる2023年7月26日付の「赤旗」

しんぶん赤旗を あなたも一緒に 作りませんか

募集
NOW

編集局を
まるごと紹介!



発行 日本共産党中央委員会
赤旗編集局

住所 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
電話 03(3403)6111(代表)

日本共産党 公式サイト <https://www.jcp.or.jp/>
編集局メールアドレス hensyukoe@jcp.or.jp

赤旗記者募集
特設サイト



日本共産党
公式サイト



赤旗編集局
2023年~



point 1

米国いいなり、財界中心 2つのゆがみに切り込む

米国に言われて軍事費を倍増、米軍の「統合防空ミサイル防衛」(IAMD)に参加するために「敵基地攻撃能力」を保有——「赤旗」は、岸田大軍拡の本質を告発し続けています。物価高騰に一番の特効薬は消費税減税なのに、なぜ政府はかたくなに拒否するのか。これも財界が消費税増税を要求しているから。この米国いいなり、財界中心の日本政治のゆがみに切り込めるのは「赤旗」だけです。

point 2

国民の苦難軽減 のために

果てしない物価高騰に、地震・豪雨などの自然災害と災害級の猛暑、終息がみえない新型コロナウイルス——「赤旗」は、現場の実態と要求を取材し、住民の暮らしと生業の再建に向けた報道に力を尽くしています。世論や運動、党議員の論戦や行政への働きかけとともに政治を前に動かす役割を果たしています。「赤旗」の報道には、国民の苦難を軽減するという日本共産党の立党の精神が根本にあります。



point 3

権力を監視する

安倍元首相の銃撃事件を機に政治問題になった統一協会と自民党の癒着。「赤旗」は他のメディアが報道しなかった時期から一貫して追及し、政治問題化してからスクープを連発しています。安倍政権時代の「桜を見る会」疑惑、菅政権による日本学術会議への介入などでJCJ(日本ジャーナリスト会議)賞を連続受賞。暴走する権力をチェックし、そこに不正があればしっかり告発し、ただす——「赤旗」はジャーナリズム精神をいかに発揮している新聞です。



赤旗って どんな新聞？ 5つのポイント

point 4

ジェンダー平等の 視点を貫く

痴漢など性被害 性暴力の根絶、夫婦別姓や同性婚など多様性の実現など、ジェンダー平等に向けて声をあげている人たちの動きをニュースやシリーズ企画、インタビューなどで最大限伝えています。また、性犯罪に関する刑法改正やLGBT法など国会論戦を通じて、ジェンダー平等を妨げている政治の転換を求めています。「赤旗」として、「ジェンダー用語ガイドライン」も作成。紙面の隅々までジェンダー平等を行き渡らせようと努力しています。

point 5

共闘をすすめ未来を語る

2015年の安保法制反対のたたかい以来、積み重ねてきた市民と野党の共闘。「赤旗」は、共闘の前進になくはならない「国民共同の新聞」です。大手メディアが与党偏重の報道を続け、野党共闘に「失敗」の不当な烙印(らくいん)を押すなか、野党共闘再構築に向けた努力を報じ続けています。また、資本主義の矛盾と限界が世界でも語られるなか、「赤旗」は資本主義を乗り越えた社会主義・共産主義の社会を展望する党の機関紙としてさまざまな角度から問題提起。連帯の力で危機を乗り越えた先に、新しい希望ある日本と世界をつくる展望を示している新聞です。



赤旗編集局で働く人を募集しています

募集
NOW

「しんぶん赤旗」をあなたも一緒につくりませんか。赤旗記者の仕事には、取材部門（海外特派員、地方総局勤務を含む）、写真部、製作部門（整理部、校閲部など）、事務部門（広告部、総務部など）があります。

応募資格は日本共産党員であることです。記者募集は通年でおこない、2023年9月～11月は「特別募集」にとり組み、大幅採用をめざしています。

応募から採用までの流れ

① 応募の申し込み

氏名、年齢、入党年月日、党活動歴、住所、職業または学校名、電話番号、所属党組織の県、地区、支部名と、応募の動機と決意（800字程度）を書いて赤旗編集局総務部（〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7）に郵送してください。1次選考をおこない、結果を連絡。合格者に経歴報告書など必要書類を返送します。

② 書類に記入し提出

必要書類に記入して党地区委員会に提出してください。

③ 書類審査

都道府県委員会を経て、編集局に届いた書類で2次選考（書類審査）をして結果を連絡します。

④ 筆記試験

5科目の筆記試験（政治・経済、社会、国語、日本共産党について、論文）があります。

⑤ 試験結果を通知

試験の結果を編集局から連絡します。

⑥ 面接

最後に面接をして採用が決まります。

筆記試験は、綱領・規約、直近の党大会決定と中央委員会総会決定、党創立記念講演などの重要文書を学習し、「しんぶん赤旗」をよく読んで挑戦してください。

赤旗記者は、中央や地方で活動する勤務員、国会・地方議員と同様に党活動を仕事にする常任活動家です。社会や国民のために尽くす献身性、困難にくじげず、決めたことや、やるべきことを最後までやりとおす不屈性、理論的には先々を見通す先見性が求められます。

記者募集についての問い合わせ
赤旗編集局総務部 03(3403)6111(代表)

好評開催中

赤旗見学会 毎週土曜日開催

午前11時20分に党本部集合
午後3時すぎに終了予定
(他の曜日也要相談)

日本共産党本部・赤旗編集局を案内し、あなたの疑問に記者が答えます。本部食堂で昼食をサービス。大学生・院生・専門学校生には**往復交通費を支給します**。毎週土曜日に開催（事前に申し込み）。

- 申込先** メールで Hata - Bosyu@akahata.com
名前、所属党組織または民青班、学生は学校名・学年、電話番号、参加希望日を明記
- 問い合わせ** 党本部代表電話03(3403)6111にかけ、
赤旗編集委員会・見学会担当へ

先輩 VOICE ①



世界でたたかう
人々の姿
自分だから書ける記事を

ファントン 特派員 2019年卒自入局
石黒みずほ

「世界中どこに行っても、たたかう人たちが必ずいる。その人たちの声を届ける記者になってほしい」——。先輩記者の言葉を胸に、米国で日々取材に取り組んでいます。

現場だからこそ、人々の思いを深く知り、リアルな実態をつかむことができます。ストライキへの支持を呼びかける署名を集めていた活動家は「権力者は国民に政治と生活は無関係だと思わせたい。私たちはみんな労働者。一人ひとりの経験に結び付けた対話を続けていくことが大切だ」と語りました。国は違っても、現場の努力や変化を望む気持ちは、私たちと同じだと実感した瞬間でした。

特派員は、自主的な判断が求められたり、勇気を振り絞って現場に飛び込むこともあって大変です。でも、変革を求め、あきらめずたたかう人々の姿を、記事を通じて伝えることができる。特派員として何よりのやりがいです。

「誰も取り残さない社会」を実現したい——。共産党員、赤旗記者としての私の原点です。ジャーナリズムを学んできたわけではないけれど、女性として、若者の一人として、自分だからこそ拾える声、書ける記事があるはず。社会を変えたいという日本の皆さんを勇気づけられるような記事を書くため、力を尽くしていきたいです。



藤川 良太

日曜版 2003年8月入局

読者の命を
救うことも
書いてよかったと心底思う

「これでゆっくり休める。ホッとした」。その夜、病室のベッドで重度の結核を患う夫は妻に言いました。社会保障制度を詳しく解説する日曜版の人気連載「お役立ちトク報」の記事の一コマです。

夫婦は病気で仕事を失いながら神奈川県内のアパートを迫われ、路上生活に。持ち出せた荷物の中に親族からの手紙があり、無料低額診療制度を特集した「お役立ちトク報」が同封されていました。最後に頼ったのが同制度で、命すら危なかった夫婦を助けました。

記事を書いてよかったと心底思いました。

担当は、沖縄の米軍基地問題から核兵器廃絶、自衛隊、自然災害まで。遊軍と

呼ばれるグループに所属幅広く取材をしています。

5年間で43兆円もの大軍拡に突き進む岸田政権。その先に、核攻撃の危険すら想定した全国の自衛隊基地の強靱（きょうじん）化計画があります。強靱化は基地のみで、核攻撃の影響があるはずの周辺に住む人たちに計画はまったく知らされていません。計画を説明した会合の参加対象者はゼネコン関係者だけ。記事にすると大きな反響でした。

権力が情報を隠蔽（いんぺい）し、自らに都合がいいものばかりを宣伝する現在にジャーナリズムの重要性は増えています。



小林 圭子

社会部 2011年4月入局

小さな声を
すくい上げ
思いつなげて大きな力に

前職は保育士をしていました。「これからの社会を築いていく子どもたちが笑顔で、安心して成長できる環境をつくりたい」——その思いは、記者になった今も変わらない大きな柱になっています。

所属する社会部では、教育や社会福祉、災害や原発問題など幅広い分野を取材します。現場に足を運び、当事者の生の声を聞く。個々の問題はさまざまでも、原因の根っこはつながっていると改めて実感します。読者から「新しい気づきになった」「共感した」などの声が届くとやりがいを感じます。

「赤旗」記者の魅力は、草の根で頑張

る人たちに寄り添い、権力に消されてしまいそうな小さな声をすくい上げていることだと感じます。

同時に、困難な状況の中でも、自分のためだけでなく「他の人と同じ思いをしてほしくない」「もっとよい社会に」と声を上げ行動する姿に、励まされ希望をもらいます。

子どもたちが安心できる環境は誰にとっても安心できる社会であるはず。報道には「社会をよくしたい」という一人ひとりの思いをつなげ、大きな動きに変えていく力があると信じています。次の世代により良い未来を渡せるように一緒にがんばりましょう！

各部の紹介 国民の目線で取材、紙面づくり

赤旗編集局には23の部署があります。

政治部

政党・政局、安保・外交、内政の各担当のほか、国会に取材団が常駐。国会論戦、政府・各党の動向、発展する野党共闘、安保から暮らしの問題まで、時の焦点、政治の深層を深く取材し、的確に伝えます。

社会部

統一協会の追及から、ジャーナリズム事務所創設者による性加害、金権腐敗、社会保障、教育、原発、災害、最先端の科学まで多彩なテーマが取材対象です。悪政に苦しむ庶民に寄り添った報道を目指しています。

国民運動部

「戦争する国」づくりを許さない、賃金・最低賃金大幅引き上げ、大学の学費無償化――。労働者、業者、農林漁民、女性、青年、市民など、国民の要求実現をめざす多彩なたたかいを報道する「赤旗」ならではの部です。

外信部

ジェンダー平等や民主主義を求め、政治を変えようと頑張る各国の市民、職場環境や権利の向上を目指し、デモやストで抗する労働者の思いを伝える記事は他紙にはないと好評です。

論説委員会

1面コラム「潮流」と2面「主張」の担当です。政治、経済、社会、文化、スポーツ、ジェンダー平等…。多彩なテーマを多様な視点と切り口で分かりやすく伝えます。

特報チーム

時々の焦点や問題について、新鮮な材料と深みのある論理で本質に迫る、わかりやすく読み応えのある企画を追求しています。



何でも話せて受け止めてくれるところですよ

きょうの紙面はこれでいいかー。調整会議の1コマです



経済部

データを集め現場を取材して現代資本主義の深部に切り込みます。経済安保の実像、税制のゆがみ、株主至上主義の構造、データビジネスのあり方など、扱うテーマは多彩です。

スポーツ部

フェアプレーを大事にし、選手の権利を守り発展させる視点は他紙にないもの。アマチュアスポーツや体罰問題も重視しています。

地方部

地方発の政治・社会・草の根運動のニュース、面白い話題や人など、多彩な記事と写真が売ります。「住民が声をあげれば政治は変わる」をモットーに、地方版や地方総合面をはじめ、1・3・社会など各面に発信します。



編集局の全体はこんな感じです

党活動部

国民の期待にこたえた強く大きな党をつくるための地をほうような努力、党活動のやりがいと苦悶、喜びを伝え、日々の活動推進の力になる紙面をつくっています。

学術・文化部

映画、演劇、美術展、音楽会などに行き、著名な作家や俳優、芸術家、映画監督、大学の研究者などにインタビュー。エッセーや評論を識者らに頼む編集者の役割も。読書面づくりでは書評にする本を選び評者に依頼。

くらし家庭部

医療や福祉から教育・料理など、くらしに関わるすべてがテーマ。「くらしの目線」で迫ります。ジェンダーや子育て連載は必読。多彩な専門家が答える電話相談は「赤旗」ならではの、今日よりちょっとすてきな明日を応援します。



スリリングな日々を送っていますが、整理部の仕事は楽しいです



日々、知識のアップデートです

各部の紹介 つづき

うれしいニュースに喜び
悲しい話に落ち込みながら
記者生活も30年めに



テレビ・ラジオ部

番組表は、テレビとラジオが同一面にあると好評、17地域分を作成しています。週3回の第二テレビ・ラジオ欄、週1回の木曜特集とあわせ、注目の番組や俳優を紹介、放送をめぐる現状や問題点を多角的に伝えます。

囲碁将棋行楽部

「しんぶん赤旗」主催の囲碁・将棋の新人王戦、詰将棋・詰碁、詰連珠を担当。ガイドブックとは一味違う旅案内、クイズ、釣りも好評です。

写真部

国民の希望、怒り、喜び、をくらしやたたかひの最前線で映像化。1枚の写真が世の中の「いま」を記録します。



集中して
校閲します



校閲原稿が
入ってきました



読者室

読者の皆さんの連帯、つながりの場になっている「読者の広場」。若いこだまや絵手紙、「わが家のペット」欄も好評です。

校閲部

原稿の誤字や文章の不備から人名や事実関係などを確認。ジェンダー表現にも注意して、正確な紙面をつくります。

整理部

「記事を生かすも殺すも整理の腕」と言われます。「1面をどうするか、トップ記事をどうつくるか」。記事の価値を判断し、見出し、レイアウトを考え、パソコンを駆使して紙面をつくります。

工程管理・開発部

編集局と各部、国会、地方総支局をつなぎ、現場から送られる原稿・写真が、紙面化され、印刷されるまでのネットワークを管理しています。

電子版室

より広い方々に「しんぶん赤旗」を広げるため、2018年7月にスタートした電子版。3週間無料の「お試しキャンペーン」も始まり注目を集めています。電子版室では、読者の声にこたえるべく毎日張り切っています。

総務部

記者が仕事に必要な各種の業務を担っています。備品の調達・管理、社会保険、健診、原稿料、支払い・請求など多岐にわたります。



ジェンダー平等を
めざして
発信しています

編集局の紹介 あかつき印刷株のASビル(地上8階、地下4階)4~8階にあります。

地方の取材網

編集委員会のもとに編集センターと22の部があります。地方の取材網は47都道府県をカバーする五つの総局があり、都道府県に専任通信員が配置されています。また、地方議員や党機関の役員、支部の党員などから通信や情報が送られてきます。

世界から発信

激動の世界をリアルに報道。北京、ハノイ、カイロ、ベルリン、ワシントンDCの5都市に支局を置き、大きな事件や災害、政変などあれば現地に急行。核兵器や気候変動などにかかわる重要な国際会議や国連大会、国際的なスポーツ大会には、本局からも記者を派遣しています。

知っていますか? 「しんぶん赤旗」だけの情報

赤旗電話相談

法律、年金・社会保険、医療福祉、教育、税金、マンションなどそれぞれの専門家による無料電話相談です。信頼と信用を長年にわたって得ています。

高層天気図

登山愛好家に欠かせない確かな気象情報として頼りにされています。

囲碁・将棋の新人王戦

プロ棋士の登竜門として棋界に不動の地歩を確立。囲碁、将棋ファンには見逃せないコーナーです。

働き方 Q&A

Q 給与や一時金は？

A 日本共産党の財政は、企業・団体献金や政党助成金をいっさい受け取らず、党費、「しんぶん赤旗」などの発行による事業収入、党員や支持者からの個人寄付などでなっています。財政的にも、党員と国民一人ひとりの浄財に支えられ、社会変革の事業にとりこんでいます。公務員並みの給与支給をめざしていますが、残念ながら、まだそこまでの水準にはなっていません。

給与は男女同一賃金、4年制大学を卒業して2024年4月に入局する記者の基本給は、20万9600円です。2023年夏の一時金は、月額給与の1カ月分の支給でした。社会保険は完備され、奨学金を返済している人への援助制度もあります。

本部食堂に胃袋をつかまれています「白身魚のネギソース」がおすすめです



フィットネスルームで身体を鍛えています



Q 休みはどうなっているの？

A 日曜日・祝日は基本的に休みです。休刊日以外は新聞を発行していますから、休日出勤する場合は代休が保障されています。2020年9月から、月1回の週休2日を実施。有給休暇は夏期休暇を含めて20日間取れます。

Q 福利厚生は？

A 党本部には、食堂、フィットネスルーム、資料室などの施設があり、赤旗記者も利用できます。

きょうのランチは何だろう？



自然光で明るい食堂



食堂

Q 子育てしながら働けますか？

A 子育てや介護をしながら働けるように、産休や育休、介護休暇の規定があります。職場では、助け合いの精神を大切にしています。

Q 体や心の健康支援は？

A 年1回の健康診断、ストレスチェックを実施。体と心の健康を大切にする職場です。ハラスメント対策では、相談員が決められていて、気軽に相談できます。心の健康相談で専門家のアドバイスを受ける制度もあります。



フィットネスルーム



資料室

記者生活30年きょう、孫が生まれました



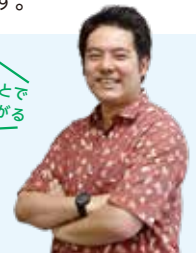
Q スキルアップの制度は？

A 赤旗記者としての基本は、新入局記者講座を毎年実施しています。赤旗の役割と歴史、取材の仕方、記事の書き方、写真の撮り方、用字用語など記者活動の基本をしっかり学びます。随時、党綱領や科学的社会主義、党史、規約と党建設などの学習会を実施します。若手記者の学習・交流合宿を2003年以降6回開催。記者能力向上企画も随時企画しています。2023年には「中堅記者講座」として、中央幹部を講師に綱領と科学的社会主義を学習しました。

Q 資格は必要？

A とくに必要な資格はありません。学歴も問いません。特派員として海外に赴任する前に語学教室で一定期間学ぶこともできます。

書くことで世界は広がる



社会変革と 真実の報道のために

「しんぶん赤旗」をご一緒につくりませんか

青年・学生党员、民青の仲間のみなさん、そしてこのパンフレットを手にしたみなさん

「しんぶん赤旗」とはどういう新聞なのか、どんな記者がどういう思いで毎日の仕事に取り組んでいるのか、職場の環境や働き方など、赤旗編集局の一端を知っていただけたと思います。

「いまの政治や社会を変えたい」「人の役に立ちたい」「自分をもっとみがきたい」——あなたのそんな思いを「赤旗」に託してみませんか。「赤旗」はみなさんの思いを受け止め、ともに考え、悩み、語り合いながら、一緒に成長していきたい。どうか、ふるってご応募ください。

「専守防衛」を投げ捨てる敵基地攻撃能力の保有、暮らし、教育は後回しの軍事予算の大幅増、保険証廃止のマイナンバーカードの暴走と迷走…岸田自公政権の民意を無視した暴走の根っこには、「アメリカ言いなり」「財界・大企業のもうけ優先」の政治のゆがみがあります。この二つのゆがみに切り込む唯一の新聞が「しんぶん赤旗」です。



赤旗編集局長
小木曾 陽司

「しんぶん赤旗」は、「桜を見る会」や学会議会員の任命拒否のスクープで時の政権を追い詰め、JCJ（日本ジャーナリスト会議）賞を連続受賞しました。いまや日本を代表するジャーナリズムとして社会的にも注目される存在です。一緒に、真のジャーナリズムの道を歩もうではありませんか。

パンフレットで紹介したように、「赤旗」の仕事は多彩です。政治、経済、社会、国際の日々の動きを追うニュース部門、文化、くらし、テレビ・ラジオなどの企画部門…それぞれから出稿された記事は、校閲のチェックを経て、整理部門でレイアウトされ、見出しをつけて紙面に仕上げられます。事務の部門を含めて、どの部門、工程が一つ欠けても新聞はできません。みんなで力をあわせてつくるのが「しんぶん赤旗」です。

「しんぶん赤旗」は、社会変革をめざす日本共産党の機関紙であると同時に、タブーなく真実を伝える国民共同の新聞です。政治を変え、社会を変え、未来をつくる——このわくわくするような共同の事業に、日本共産党员として、「しんぶん赤旗」の記者として参加してみませんか。赤旗編集局は、みなさんの応募を心からお待ちしています。